

# 第46回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会 新潟地区一次・二次予選会 大会特別規則及び申し合わせ事項

## 1 大会特別規則

- (1) トーナメント戦とし、3位決定戦は行わない。
- (2) 各試合とも6回戦とし、1時間30分を過ぎて新しいイニングに入らない。
  - (ア) 決勝戦も同様とする(全国大会から市町村支部の大会まで一律に適用する)
  - (イ) 後攻チームが勝っている状況で制限時間に達した場合は、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。
  - (ウ) 暗黒・降雨などで試合続行が不可能な場合は、5回終了または、試合開始から1時間30分を経過したら試合成立とする。但し、同点の場合は、一次予選の決勝及び二次予選の準決勝、決勝は再試合とし、それ以外の試合は抽選により勝敗を決する。
  - (エ) 上記(ウ)の場合で、5回に満たず試合開始から1時間30分を経過していない場合は、競技者必携の特別継続試合の規定は適用せず、すべて再試合とする。
- (3) 6回を終了または制限時間が過ぎても勝敗が決定しない場合。
  - ①延長戦は行わずタイブレーク方式とする。
  - ②タイブレークは1イニング行い、勝敗が決しない場合は抽選とする。  
※抽選方法は競技者必携248及び249ページによる。指名打者は抽選に加わらない。
- (4) 5回終了時点で7点差が生じた場合はコールドゲームとする。  
ただし、それ以前の大差の場合、両監督による協議のうえ試合を打切ることがある。
- (5) 変化球については競技者必携49ページによる。
- (6) 投手の投球数制限について
  - ①肘・肩の障害予防のため、1人の投手が1日に投球できるのは70球以内とする。
  - ②70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、又は打撃を完了する前に攻守交代になるまで投球できる。投球制限には、タイブレークの投球数を含む。
  - ③1度降板した投手は、70球に達するまでその試合やその日の試合に再登板できる。
  - ④投手の投球数には牽制球や送球とみなされるものは数えず、実際に打者へ投球した球数とする。
  - ⑤4年生以下は1日60球以内とする。
  - ⑥同一日に本大会と別の試合を実施するチームは、球数を合算するため大会本部へ申告しなければならない。

## 2 用具(バット・捕手防具・ヘルメット)について

- (1) バット、ヘルメット、捕手の防具は別紙のとおりとする。
- (2) グラブの規定は、別紙のとおりとする。

## 3 安全対策

- (1) 素振り用リングは抜ける危険があるので持ち込みを禁止する。(グラウンドに持ち込まない)
- (2) 捕手は危険防止のため、必ずマスク(スロートガード付)・プロテクター・レガーズ・ヘルメット・ファウルカップを着用すること。(控えの捕手とブルペン捕手も同様とする)
- (3) 打者、次打者、走者及びベースコーチとも両側にイヤラップの付いたヘルメットを着用すること。
- (4) ポールパーソン、バットパーソンもヘルメットを着用すること。
- (5) 試合前のノックの補助員(ノッカーにボールを渡す者)は安全のため必ずヘルメットを着用すること。

## 4 塁審

帯同審判制とし、必ず各チームより2名出すこと。

第1試合の帯同審判員は試合開始予定時刻の30分前、第2試合以降は、前の試合が終了後、直ちに会場本部へ集合する。

<1日2試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。

<1日3試合> 第1試合＝第3試合から。 第2試合＝第1試合から。  
第3試合＝第2試合から。

<1日4試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。  
第3試合＝第4試合から。 第4試合＝第3試合から。

<1日5試合> 第1試合＝第2試合から。 第2試合＝第1試合から。  
第3試合＝第5試合から。 第4試合＝第3試合から。  
第5試合＝第4試合から。

※ 二次予選の準決勝以上は、連盟審判員の3審制で行う。

※ 試合の記録については、各試合の帯同審判員4名の内の1名が当たる。  
ただし、二次予選準決勝、決勝を除く。

## 5 試合開始時間

<1試合目> 9:00 <4試合目> 14:30

<2試合目> 10:50 <5試合目> 16:20

<3試合目> 12:40

※ただし、同一チームの試合が連続する場合は、次の試合を30～60分程度遅らせる。

※第2試合以降のチームは開始時刻の60分前までに会場に集合し大会本部へ到着を届け出ること

※打順表の提出は第一試合に出場のチームは試合開始予定時刻の30分前までに提出する。

第二試合以降のチームは前の試合の3回終了時まで提出し、攻守を決定する。

提出枚数は5部とし、控え選手もフルネームで記入する。その際各チーム試合球を2球ずつ提出する。

打順表と登録名簿の照合後、会場責任者と審判員の立会いのもと速やかに攻守を決定する。

## 6 補助員について

(1) 投球数をカウントするための補助員(20歳以上)を各チーム2名ずつ選出すること。

(2) 第1試合のチームは開始予定時刻の1時間前までに、第2試合以降のチームは前の試合の終了後直ちに会場本部に集合して打ち合わせをしてください。

<役割>ボールパーソン、得点係等を含めて役割分担と方法を各会場で説明します。

## 7 その他の注意事項

(1) ベンチ内での携帯マイクの使用は禁止する。メガホンは監督のみ使用を認める。

(2) 礼儀に反するような行為はつつしむこと。(言動、鳴り物、携帯マイク等)

(3) 抗議権を有する者は、代表指導者(監督)か当該プレイヤーのいずれか1名。

(4) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。ただし同一チームが2試合続く場合はこれにあらず。

(5) ボールパーソンは各チームから2名出すこと。(登録選手以外又は大人でも良い)

(6) シートノックは行わない。

- (7) 監督は、アピールや選手交代などをする時は、その身分を明らかにするために、グラウンドコートを脱いで申し出ること。(背番号の確認)  
※監督のタイム及び攻撃のタイムは監督のみとし、コーチやその他の者が代理することはできない。また、選手が伝令として伝えることもできない。
- (8) ホームベースのサイズは一般社会人のサイズと同じものを使用する。
- (9) 試合前のアップ時は、フリーバッティング、ハーフバッティング、ティーバッティングを禁止する。ベンチ前と外野でのノックは行うことができる。  
但し、グラウンドコンディション等により認めない場合がある。
- (10) 各イニングの先頭打者とイニングの途中で投手が交代した後の先頭打者はその投手の準備投球が終了するまでネクストバッタースボックス内で待機し、球審の合図でバッターボックスへ向かうこと。
- (11) 攻守交代時に自チームの練習をベンチ前で見守ることができるが、プレイがかかる前に速やかにベンチへ入ること。ネクストバッタースボックス内の選手以外の者が投手の準備投球に合わせて素振りをするのを禁止する。
- (12) 投手の 12 秒及び 20 秒ルール（ピッチクロック）は、審判員が注意指導を行う。但し、二次予選会の準決勝及び決勝戦はペナルティー等の規則を適用する。  
※タイムを宣告してボールデッドとする。「タイム」の宣告にもかかわらず投手が投球した以降のプレイは無効とする。  
※投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したときに始まり、投手が投球動作を開始したときに終わる。
- (13) 指名打者ルールを使用することができる。但し、二刀流選手を採用しない。(大谷ルール)
- (14) 試合会場で軟式野球ボール以外のボール等を使用した練習を禁止します。
- (15) 第 1 試合のアップについては、試合開始時刻の 1 時間前にグラウンドを利用できる。  
但し、グラウンド整備により時間が前後する場合がある。
- (16) 4 年生以下の投手のバッテリー間及び塁間の規定は採用しない。
- (17) 次のイニングに引き続き投げる投手は、ベンチ正面でのキャッチボールを禁止するが、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーで軽いキャッチボールは認める。ブルペンの使用は従来通り。ストレッチ、ランニング等は攻守交代の間のみできる。

## 8. スポーツマンシップの徹底

野球にヤジは必要ありません。楽しい野球をするために「尊重・勇気・覚悟」をもって取り組みましょう